

## 酒飯論絵詞



茶道資料館が所蔵する酒飯論絵詞を紹介いたします。

この絵巻は上戸の造酒長持と下戸の飯室律師とがそれぞれ酒と飯の徳を述べ、中戸の中左衛門大夫仲成が仲裁するという物語が詞書と絵によって語られます。この内容から「上戸下戸絵詞」ともいわれます。また、酒飯の論争とともに、造酒長持が阿弥陀の名号を、飯室律師が法華経をそれぞれ誦え、仲成が天台の立場をとるといって三宗論争にもなっています。

初段は三人が集まって議論を始める場面、二段目は造酒長持、三段目は飯室律師、四段目が中左衛





門大夫仲成という四段で構成されております。

絵には酒宴の有様、厨房の風景などが克明に描かれ、石臼で茶を挽く様子、長板で茶を点てる様子も見ることができます。当時の茶



の湯や食事の様子をうかがう上で恰好の資料です。

原本は室町時代に作られたものです。近世以降、写しが制作され、茶道資料館にも、彩色されたこの絵巻と白描のものがあります。

これは江戸時代に制作されたものですが、原本の姿を良くとどめております。詞書、絵ともに筆者は不明です。大きさは縦三四・五センチメートル、長さ一三九八・二センチメートルです。

順次全巻をご覧いただく予定です。

写真上：長板による風炉の設え（第3段）  
 写真右下：茶臼を挽く（第1段）  
 写真中央下：食事風景（第4段）